

時代に即した新しい会社像を

年商10億円、トラック100台目標に

「古いものと新しいものをうまく融合させて、時代に即した新しい運送会社像を作り出したい」と語るのは、日之出運輸(初井幸雄社長、福岡県遠賀郡水巻町)の大宅秀順常務。

警で、トラック野郎に憧れ、そしてトラックに憧れた」という大宅常務は、大学を卒業して2歳で地元の運送会社にドライブとして就職する。4年や、憧れだった大型の荷物車は、友人の紹介もあり

り、27歳で同社に入社する。
4年ドライバーとして九州管内、東は広島までのエリアをスポット輸送で担当し、「睡眠時間は1日2~3時間で、地場輸送なのに1週間家に帰れないこともあつた」というほど、仕事に毎日だったと「仕事は今まで考えられないほどハードだったが、当時は充実し、楽しくて仕方がなかつた」と振り返る。

しかし、そんな苦労に転機が訪れる。当時、建設会社の代表を務めていた母親から、「手伝うよう懇願されたのだ。最初は断っていたが、今は理解している母親を見捨てられず、結局、同社を退職し、家業を手伝うようになる。半年間の猛勉強で、1級

よりになり、2年後には係長に昇進、管理職になつた。「一生懸命働き、結果を出し、自信をもって仕事をしていた」という。

しかし、そんな常務に転機が訪れる。かつた運送の世界へ戻りたいと考えるようになつた。

「初井社長に相談すると、早く出張りを受けてくれた」と語る同常務は、「出張りにも関わらず、運送車として採用してくれ、その恩に報いなければ」と

本から取り組み、積載効率や配車効率の向上を追求していく。主とも交渉を重ね、それでも交渉を重ね、回転率の向上も図った。

同社は2台、4台の地場輸送がメインで、リネン関係や雑貨を扱っているようだ。立地向かうた。配車の仕組みの改善に根柢として働くが、しっかりが多く、頑張っても結果が伴わない仕事に悶々感と限界を感じ、楽しむようになった。

は、会社を任せると打診されているようでもいいよ。今は競争中」と同常務は明かす。「創業60年と歴史のある会社だけに、先代が築き上げてきたものを継承しつつ、これからにかけてきたものを受け入れてくれた」と語る同常務は、「出張りにも関わらず、運送車として採用してくれ、その恩に報いなければ」と

筑紫の国に生きる

第10回

車、福岡県遠賀郡水巻町)の大宅秀順常務。

車、福岡県遠賀郡水巻町)の大宅秀順常務。

車、福岡県遠賀郡水巻町)の大宅秀順常務。



日之出運輸 大宅秀順常務

（高田直樹）